



春曙抄一



法少納言の撰也少納言は清原元輔のひとめ
あれは其姓を用ひて清少納言とつり父は元輔は撰
集の撰者梨壺乃ふ人のひとめ
天曆二年梨壺より始宣元輔
順時文を撰本は撰をえり

清原氏系圖

天武天皇 — 舍人親王イヒナリ 日本紀撰者 — 貞代王 — 有雄 — 通雄ミナヲ 賜清原姓

海雄統ある — 房剛フナリ 豊前守 — 深兼人フカヤブ 内近 允藏人所難色

顯忠アキタケイ 泰光下野守 — 元輔肥後守 — 法少納言法少納言の御子

法少納言の撰也法少納言は一条院の皇女宮乃女房のひとめ
けり皇女宮のひとめは中國白道陰公のひとめとて定子とつり傳は
法少納言の撰也

山巻及思義誰人よりや。勅抄は他より朱点ハ教成心
 ことなれば奥出なる可也。本之周付人よきものあり。また
 又一本上下二冊。春とて宮内注進有。氏乃奥出あり。嘉瑞
 一紙のなほよあはひらる事ふなり。似ては次花御の次
 等あり。大きに異也。又注が納書乃并より一物終一紙と云
 つねずけ奉り先を乃月いさる由乃奥出あり。是れ
 ことだけい巻及思義教成り等れ奥出の奉れあり。いと
 古今乃用多し。他授初より。其後拾遺十載集新古今
 續古今玉葉集等より。注が納書乃并。御去や。るも
 皆い奉れ。るも。は。と。あ。わ。ご。ら。外。順。德。院。乃。禁。秘。抄。八。律。律。抄。
 書。不。注。し。納。書。乃。記。り。あり。と。き。る。事。も。も。又。基。後
 乃。注。目。抄。よ。音。炮。響。乃。雪。封。事。あり。兼。好。法師。乃。往。花。草
 乃。注。目。抄。よ。音。炮。響。乃。雪。封。事。あり。兼。好。法師。乃。往。花。草
 られ。る。事。も。も。又。基。後
 られ。る。事。も。も。又。基。後
 られ。る。事。も。も。又。基。後

草紙の中古。業経乃抄下用ありと。此傳人傳ね。は。は。の
 見傳し。只。多年。い。草紙。を。よ。み。す。り。合。する。事。あり。は。な
 食を。と。な。な。く。か。い。く。人。を。ま。り。し。し。持。草。其。事。も。も。い
 延喜式。西。官。抄。山。抄。又。び。双。葉。ト。わ。は。乃。云。あり。は。な。事。の
 ころ。あれ。は。江。以。身。持。秘。抄。雪。圖。抄。二。系。大。同。注。玉。其。年。中
 行。事。其。身。合。れ。顔。一。系。福。園。注。下。乃。二。事。根。深。を。と。り。ん。ぐ。人
 官。位。乃。乃。ハ。官。位。令。職。原。折。百。察。訓。要。抄。あり。と。用。い。家。
 本。ハ。順。和。名。集。拾。芳。抄。乃。勅。へ。名。下。身。花。等。あり。と。り。か。し
 計。草。紙。を。よ。く。は。込。せ。と。せ。る。事。も。も。八。ヶ。倉。抄。を。よ。り。か。て

月竹の彼巻及思存乃動物了りしとせし人ノ官考系圖
 傳有といふに補任大系圖・采花池池・大流作者部類もよく
 おきあがり川舟八万葉集・古六帖之代集りりあつた代
 乃撰集家其集書小勅へ神社日本紀二代實録正武武
 ト部乃家説書を引く佛乃うへいし経を勅へ古語漢
 家ノ諸書よりくく古詩ハ文選文集のくい菅家文草本朝
 文粹朗詠集あり月よとど我勅詩文よりハ類りきと岡事
 ありしに玉詩集多し足伝ぬどし衣服乃くくハ飴抄枕葉葉
 葉乃く河海抄花多餘花ありの類やと朝乃くくハ源氏伊
 勢物語乃諸抄を説くハ土丸記大和物語夜宮活拾遺在者同
 江談からくく乃乃古物語も多し年々ハ一の屏書ハ中よめ
 双紙乃伝しとくくを月い詩と偏小門人乃多しあつた

春ハあけりのやうく白く
 うりゆく 曙アヤ物同
 カノ時節乃事なき
 ころハ雅云春者春陽
 万物發生するはるの
 物生しし物あらはれ
 瑞もかりは露瑞り
 春ハ眼を賞するはる
 少納言乃事ありて
 枕双身一アノ形容と
 こよりゆきやこよめ
 友ハハハハを賞するは
 下美子芳ありやハ
 のち堀川百首六百首
 哥合もくく春の曙
 とくくを賞されたり
 こよめはあやこよめ
 こよめはあやこよめ
 曙乃中のうと黒ふ
 日影うつろひて雲乃く
 ぬきく
 友ハハ 辰ハ暑氣乃
 傳くくハハを賞す

春ハあけりのやうく白くありゆく
 山ぎさすうーありきくじくこよめ
 くる雪乃ありくくあびきくく。友
 くる月のころをゆきあり。やとを
 くるととびらぐひく。あきどのよき
 あり。秋ハくぐれ夕日さるやうさ
 て山ぎさいとちくありくく鳥乃
 ねとくくくくくくくくくくくく
 あきくくくくくくあり。あきく
 して居るを白きく
 厚あきのつてねくくくくくく
 とあきく。日つりくくくくくくく
 ねあきくくくくくあり。冬ハ雪れあり

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

七月の雪

柄直衣 面白 裏赤花
直衣はつひの小いなりし
こつり。たつこ白きまら
のわやをぬゆ。或は平縮に
裏は平縮。ほろろ花
葉葉

枕花葉葉云一様は及出
社有憚之時畧之但衣
單筆着也。これ直衣乃
こりむ。乃ひひひひひひ

次弟小島延喜式大
政官式云凡賀茂二社
四月中酉祭 舟内親王
向社史一人左右史生各
一人官掌一人向祭所
校諸事。山城国司預

令奉幣并有走馬
りいらんせん。る白き
あをくらも。しあわ
一様は及云青朽葉
表青丹裏静。二監ハ
赤花と書花なり。厚

河海抄云給植也。原
野分まにわうひひひ
ゆまわいひひひひひ
ぬいぬいひひひひひ
ふあまひひひひひひ

浮縮れぬ。はらと縮り
くいつり。こみおれ用さ
たせとてあつたさ
すうご。未濃か
ぬきすうとさ
紺もこつり

けいしんもの
けいしんもの奥も
背れぬ。和名集

客入
あねはせうとれをさし
あれ。ろこらうくわ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

舞かぶさるるさしりし流の
河海抄云流き
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に

宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に

宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に

宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に

自職曹司行啓平生昌于
時中宮前大進云前但馬
守後正四位下幡摩守
經文章生贈三位弥枝二
男中細言惟仲弟
中宮大夫中宮亮大進少
進少とき佐とれは
車をさそとよ友人に
や乃出さるる

宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に

宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に

宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に

宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に

宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に
宣化天皇の三年に金童山に

桃華葉葉云 楸榔毛
赤色葉錦縁 檜芳葉深
下葉 緋綱端 或時
ら用青葉 華緑 末

も進士の、(語)に女は
夕暮の君進士は成り
ひびのいれや、(語)に
東の野より来るる陸軍
あれは、(語)に
まじり、(語)に
に、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に

中支の我、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に

あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に

あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に

あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に

あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に

あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に

あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に

あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に
あ、(語)に
の、(語)に
われは、(語)に

はとめてはあまのつり
けいしれい ことおまお中
まればあふしてあまのつり

とつりせり

ひめらや乃 これおま
生島り事らつ別れ

ひめらや乃はりはわつり乃

院皇女は母中宮定子のち
すし倫子内親とさ

せすすしあよああせりるに

わりのあこめれらあうい
袖の童女乃汗衫乃下に

あこめれらあうい

まもれらあうい
こめれらあうい

つるべもとらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

あこめれらあうい
あこめれらあうい

あこめれらあうい

とぶつれあひて
宿まひねらるるし
とびつれあひて
とびつれあひて
とびつれあひて
とびつれあひて
とびつれあひて

大まかしくは
いふに
いふに
いふに
いふに
いふに
いふに
いふに

大まかしくは
いふに
いふに
いふに
いふに
いふに
いふに
いふに

さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ

さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ
さうありたれよ

正月一日三月...

元日上巳乃...

五月みく...

黄梅の時...

三体詩云...

雨用事...

日陰雨...

相肚竜山...

おろひ...

道乃き...

云九日...

可却世...

引...

乃...

舟合乃...

し...

延喜式...

以下官...

居左右...

て...

さ...

い...

裏一系...

月十...

行幸...

十月...

これ...

湖平...

正月一日...

お月...

夕...

乃...

り...

く...

ぬ...

り...

れ...

れ...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

り...

すけりあの人 勘解由小路 南鳥丸乃西一町。道真公の信西或は多説是善の家

也。當時勸喜光寺と号す。小野全月神代は西も多し。枇杷を方々種小供とく

まひんかん 本は冷泉院よりしを火災一は、築のゆきを改め冷泉院とす。松

大炊屋門乃南河川乃西流浦の帝代信守に院累代のは院弘仁亭と

朱雀院 信武より一すくわんとより。三条の朱雀院は四町。四条の朱雀院の東に

こうわ 洞院よりや

小野宮 大炊屋門乃南鳥丸の西。惟高親王の家。定頼を傳へたり。信成の信成

こうわい 紅毒殿より。三条坊門の小野乃西。信成の信成。信成の信成

あがのわい 縣井戸。一条の西。赤洞院の西北角。井戸殿より。信成の信成

しとめ 小野乃西。信成の信成。信成の信成

こう三条 西三条乃西。忠仁公の家。貞信公。大入道。信成の信成

乃南町乃西。南鳥丸の西。忠仁公の家。貞信公。大入道。信成の信成

こ六条 楊梅乃西。鳥丸の西。院とす。小六条院の信成。信成の信成

こ一条 近傍の南洞院乃西。信成の信成。信成の信成

ここれゆ 松友坊よりあり

信成殿のうりり

それより割の事は信成殿

あつむいある信成殿

荒海乃降子とす。信成殿

松林坊乃信成殿のうりり

ふくせとす。信成殿の信成殿

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

信成殿のうりり

乃らうのうきいぬ
探唐衣よりけり
宗しと一糸程圍の由は
くわらうのうきいぬ

くわらうのうきいぬ
ゆり優う格行
ちちやうきいぬ
仕書書し
うう格行
かたわらうのうきいぬ
こつとふん

袖口あき
胡曹抄
是定例也
不出妻并裳
節之時押出
妻并裳要月討也

林秘抄云凡御膳大床
子御膳朝久也代一度供
朝餉御膳朝久夜侍皆
一度供之此御膳等迎
代主上不着下男又日
大床子御膳時必可
着御其作法藏人
奏御膳時御直衣自
帳後着大床子懸膝
着之東向陪膳人敬儀候
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ

いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ

いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ

奏大前殿の御上
おどろかし
乃かしねども
ちちやうきいぬ
小半部
書御座也
陪膳の
をど

いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ

いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ

いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ

いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ

いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ
いさ紙のうきいぬ

といぜんはうまうまの
おのゝもをいめす
後膳乃らうまうまの
乃女をうまうまの
膳を人なうまうまの
さしてりうまうまの
かゝるわうまうまの
且上の膳すうまうまの
中みの膳うまうまの
禁秘乃ら立著之後経
本路還本所である

はがの里きうまうまの
あて只月をあけて
若侍をうまうまの
かゝるわうまうまの
はし
若侍をうまうまの
あふまうまうまの
さうまうまの
あも同をうまうまの
かゝるわうまうまの
さうまうまの
あふまうまの

あふまうまの
はがの里きうまうまの
あて只月をあけて
若侍をうまうまの
かゝるわうまうまの
はし
若侍をうまうまの
あふまうまの
さうまうまの
あも同をうまうまの
かゝるわうまうまの
さうまうまの
あふまうまの

といぜんはうまうまの
おのゝもをいめす
後膳乃らうまうまの
乃女をうまうまの
膳を人なうまうまの
さしてりうまうまの
かゝるわうまうまの
且上の膳すうまうまの
中みの膳うまうまの
禁秘乃ら立著之後経
本路還本所である

はがの里きうまうまの
あて只月をあけて
若侍をうまうまの
かゝるわうまうまの
はし
若侍をうまうまの
あふまうまの
さうまうまの
あも同をうまうまの
かゝるわうまうまの
さうまうまの
あふまうまの

あふまうまの
はがの里きうまうまの
あて只月をあけて
若侍をうまうまの
かゝるわうまうまの
はし
若侍をうまうまの
あふまうまの
さうまうまの
あも同をうまうまの
かゝるわうまうまの
さうまうまの
あふまうまの

の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて

中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて

中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて

りありしやあはれんを
 られぬれをわびて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて

中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて

中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて

中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて
 中宮の御中申されぬありき
 侍人にもあつてまはりて

御尋て執事等御尋
御尋て執事等御尋

村上帝の御尋
村上帝の御尋

中宮の御尋
中宮の御尋

内侍の御尋
内侍の御尋

侍相當從五位
侍相當從五位

上座部
上座部

女御の御尋
女御の御尋

あつとありあつとあり
あつとありあつとあり

あつとありあつとあり
あつとありあつとあり

あつとありあつとあり
あつとありあつとあり

あつとありあつとあり
あつとありあつとあり

あつとありあつとあり
あつとありあつとあり

あつとありあつとあり
あつとありあつとあり

あつとありあつとあり
あつとありあつとあり

長女八千代

長女八千代

いしかり 終名院水鏡
よしかりの百姓し
さあつとていさしとあつす
やあらん 殿原よりあつす
まともれんさうとあつす
さあらんさうとあつす
仕立て侍りといふ
いしかり
内侍のすけ 典侍 相當從
四位掌同尚侍 令
禁秘抄より典侍四人也
志重公の侍臣也大長子
御大長孫サニ有御
すつとていさしとあつす
受領のさのさし 十一月中
常寧殿より帝五弟の妹
姫といはれり 受領より
ふさつとていさしとあつす
いしかり 常此身ハ
より二人受領より二人
代始より二人受領より
ふさつとていさしとあつす
身中御事合注書者

いしかりのすけ 典侍 相當從
四位掌同尚侍 令
禁秘抄より典侍四人也
志重公の侍臣也大長子
御大長孫サニ有御
すつとていさしとあつす
受領のさのさし 十一月中
常寧殿より帝五弟の妹
姫といはれり 受領より
ふさつとていさしとあつす
いしかり 常此身ハ
より二人受領より二人
代始より二人受領より
ふさつとていさしとあつす
身中御事合注書者

